

令和2年度

事業報告書

Rika Kindergarten



☆ 事業状況

新型コロナウイルス感染拡大防止対策に追われた一年間を経過しましたが、まだまだ厳しい状況であると実感しております。

このような制限された教育環境において、多くの経験を致しましたが、教育活動は勿論、生活においても「何ができるか」を真剣に考え、具体化することの大切さを痛感しました。幸いにも、当園の人材は経験豊富なベテラン教職員と元気で活動的なフレッシュな教職員との信頼関係が充実しており、厳しい制約の中ではありましたが、多くの行事や発表を実施することができました。令和3年度も引き続き積極的な教育活動を行いたいと思います。

こうした社会環境の中で、当園は積み重ねた教育実績を中心に、社会が求める教育を真正面に捉え、自らの教育の方向性を見失うことなく活動します。

未来を担う子供たちが将来活躍できるよう、基礎を構築することで社会の信頼を得るよう考えております。今後も「教育の梨花幼稚園」の教育理念を大切にしたいと考えています。

☆ 令和2年度に実施した活動についての検証は、以下の通りです。

1. 昨年度「何ができるようになるか」を具体的に実践するため設置した「学習クラブ ACT」において、専門知識を要する教師を配置し、国語・算数を中心に小学校教育を念頭に実施しました。
今年は更に学習の定着を目指しクラスを二分し、学習目標の到達度別に指導を強化することで、「落ちこぼれ」を出さないよう配慮致しました。
求める学習内容としては、学習クラブの指導で子ども達が具体的に気づいたことやできるようになったことを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現することで、「学びに向かう力」の育成に努め、一定の効果が見られました。今後も継続したいと考えます。
2. 子どもの自信の無さを解消すべく、あらゆる方向で指導を重ねていますが、一定の効果はあるものの、十分な成果には至っていないと考え、日々の教育活動を大切に、「やればできる」を体験し、「できた!!」を感じさせる指導を強化し、多くのことができることを確認しました。
自信に繋がる経験を積み重ねることで得られる、「生きる力」を育てたいと考えます。
3. 当園の特徴の一つである「作法教育」を更に進め、「生きる作法を身につける」に注目した指導を行なう為に、挨拶の質を高めることを実践しましたが、まだまだ十分とは言えません。今後も、基本に従った指導を継続的に行う必要があると考えます。
4. 幼児教育を実践する幼稚園は、家庭との連携により愛情と躰を通して幼児の成長の基礎を成す心の基盤を形成する場であるとの考えの基、家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、教職員に支えられながら、幼児期なりの世界の豊かさに出会う場を設け、このような経験が、幼児の思考や知識を蓄えるための基礎が形成され、「知識及び技能の基礎」となり「学びに向かう力」となるよう実施しましたが、新型コロナウイルス感染対策上十分な経験を与えるに至りませんでした。更に今後の課題として取り組むこととします。
5. 「たくましきづくり」「優しい子に育てる」「マーチングの完成度を高め維持する」等を実施しましたが、新型コロナウイルス感染対策の為、成果を発表する機会が制限されており、十分では無かったと感じます。

令和3年5月10日

学校法人 鷺巣学園 梨花幼稚園
園長 高瀬 絹代